



●Answer
 帰依 龍照(きえりゅうしょう)
 沖縄市・コザ山球陽寺住職

Q 今年、お墓を造ることにになりました。しかし、友人から「あの世に早く連れて行かれるので、元気なうちにお墓は造らないう方がいい」とアドバイスされました。かなりテンション下がっています。どうすればいいでしょうか?

(那覇市・Oさん)

A そうですね。かなりテンションが下がりますね。でも、そのアド

バイスは「お墓＝死(死する)」という考え方の表れかもしれません。沖縄では、お墓は「骨身案内(フニシヌウンチケイ)」といって納骨する場所ですので、このような考え方をされても不思議ではありません。

一方、「お墓＝生(生き

る)」という考え方も沖縄には存在します。沖縄の清明祭(ウシミ)は、家族や親族がお墓の前に集まって行いますが、これは、生きていた私たち「生身(イチミ)」の繁栄を感謝する場所として、お墓が敬われているのです。元気なうちにお墓を造る場合、これを「生前墓(せいぜんばか)」といいます。その際、「あの世に早く連れて行かれる」ことを防ぐため、沖縄の慣習とし

て、建墓業者さんが、お墓に記される「○○家之墓」や「屋号」などの文字を赤字で塗ります。また、完成したお墓にスコップなどの工具を入れたままにして、「まだ工事中で、お墓は出来上がっていない」と見なすなどの工夫をしてくることでしよう。地域によっては、工具の代わりにサンや竹などの祭具植物を入れたままにすることもあります。

このように沖縄には心強い慣習があるので、心配ありませんよ。生前墓は、子孫にお墓を造らせるという精神的・経済的な負担の軽減にもつながりますので、現実的な選択であることが広く知られています。応援しています、Oさん。

Q 新築に伴い、トートナーを引越すことになりました。父は、住職さんにお願ひしなさいと言ひ、親戚のオバさんは、ユタにお願ひしなさいと言ひます。住職さんとユタは、違ひますか? 仲がとても悪いとも聞いています

(うるま市・Kさん)

A ははは、かなり露骨な質問ですね。差し支えないように、私が住職

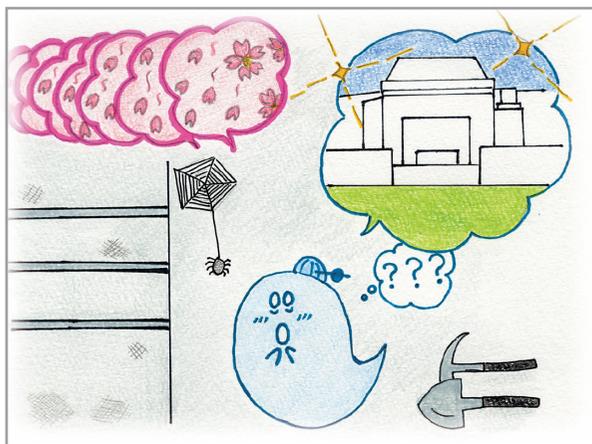
を務める「コザ山球陽寺」の現状をお答えすると、住職である私は、ユタの方々とは、とても良いご縁をいただいています。大切なのは、その職業や立場に関わらず、信頼のおける方に依

頼することだと思います。

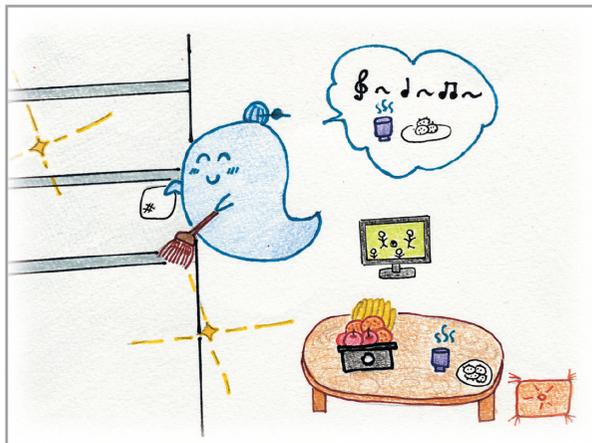
トートナーの引越しは、「入仏式(にゅうぶつしき)」と呼ばれることもあります。それに先がけて、今まで沖縄の年中行事や法事などを行っていた場所では、「遷座式(せんざしき)」という引越し前の法要を行うこともあります。以前から、ご縁のあるご住職・ユタの方々がおられましたら、Kさん宅の作法や心得にも明るいはずですので、その方に尋ねてみてはいかがでしょうか?

儀式・法要のたびに、いろいろな方に依頼されているのは、船頭さんが二人・三人と増えていくことになり、沖縄の複雑な地域性や、個人的な考え方に振り回されてしま

うことにもなりかねませんので、人と人との出会いやご縁は、十人十色といわれますように、多くの方々と出会うことにより、本当に長くお付き合いができる良縁に恵まれるのではないかと思います。今回のご住職やユタの方々との出会いが、そのような良縁になれば素晴らしいと思います。



生前墓を造つたら、長生きしたよー。お墓も古くなつたねー



キレイに掃除してから入るうねー

イラスト: 帰依ひろ子